

## 主なご質問とご回答

2025 年 12 月 5 日、2025 年度中間期会社説明会にて頂いた主なご質問とご回答は以下の通りです。

Q1	上期の進捗と本日の説明により、2026 年 3 月期の上方修正に期待が持てた。不透明な点がある中でも日銀の利上げ後など、どのタイミングで上方修正を検討していくのか。また、連結当期純利益の 2027 年度目標は 200 億円だが、こちらも達成が近く見える。見直しの可能性やタイミングについてコメントをいただきたい。
A1	2025 年度中間期は順調だったが、政策金利の引き上げがあった場合は先行して預金の支払利息が増加する。また、与信コストも増加しており、注意が必要なため、現状維持とした。通期の見直しについては、タイミングを見て検討していく。 経営計画「財務」中間目標の見直しについては、2026 年 3 月期の着地を見て検討していく。

Q2	預金と貸出金の伸びについて、預金では法人が大きく伸び、貸出も全体的に非常に伸びているが、需要が強かったのか施策が上手くいっているのか。
A2	預金の増加については、当行はマイナス金利の状況でも預金の重要性を認識し、粘着性の高い預金の獲得に注力してきたことが奏功し法人預金は順調に増加した。 個人預金の増加率は高くないため、非対面チャネルの強化や遺言信託、相続の支援等をしっかり行い、積み上げを図っていく。 貸出については、需要が高いことに加え、ストラクチャードファイナンスの積み上げもあり増加した。

Q3	有価証券について、特に円債の利回りは 0.8%以上あり、非常に良い状態という印象を持っている。バランスシートの中で何かリスクがあるとすればどのようなリスクがあるのか。
A3	リスクとしては、いわゆる悪い金利上昇により株価が下落していくことには注意していく必要があると認識している。

Q4	株主還元について、株価の上昇により配当性向 30%では配当利回りが低くなった。他行では配当性向 40%を掲げる銀行もあり、見劣りする水準になっているが、見直しの可能性についてコメントをいただきたい。
A4	株価が上昇すると配当利回りは低下する。今後もしっかりと収益を高め、結果的に株主還元を強化していくという方向性に変更はない。

Q5	政策投資株式について、一部を純投資に移行したように見受けられる。これまで通り、今後も機動的に売却していくという認識で良いか。
A5	これまでは期中に売却できる政策投資株式は基本的に純投資に変更せず、売却してきた。純投資に変更した株式は、政策投資株式を管理する部門とは分離された市場運用部門が管理するため、配当利回り等のパフォーマンスを見ながら売却を検討していくことになる。

Q6	総自己資本比率の考え方について、現状約 12%パーセントだが、バーゼルⅢの最終化で完全適用となり株式のリスクウェイトが上昇すると 1%程下がるという認識している。今後も株式は一定程度売却していくという認識で良いか。
A6	バーゼルⅢの最終化が適用されると株式のリスクウェイトは 250%となる。株式の売却については全体の RORA と比較しながら検討していく。

Q7	与信関連費用について、2025 年度上期は大口倒産により増加したという説明で、それ以外に目立った要因はない印象を持っている。足元の愛知県経済において、堅調な業種と注意すべき業種があれば教えていただきたい。
A7	愛知県の主要産業である自動車関連企業においては、現状大きな懸念は無い。但し、その他業種については一部で二極化が進んでおり、注意が必要と考えている。

Q8	ストラクチャードファイナンスについて、残高構成割合の内容と 2025 年度上期の RORA が低下している要因を教えていただきたい。
A8	低リスクウェイト貸出は、地公体向けの貸出やフラット 35 を裏付けとした貸出などがある。 2025 年上期の RORA が低下した要因は、一部債券のリスクウェイトが高くなったことによるもの。

以 上